

経済という新しい現実

黒田インターナショナル
黒田 毅

半導体や先端産業はその技術進歩における自己プレゼンスは、産業のコアとして、絶対的な技術優位性を産業において独占できる。また、これらは新しい学術進歩における世界の創造を有し、高学歴の人材が有する自己現実、学歴のない存在との相違性を明確にするのである。

資本力における先端産業や先端技術の所有競争は、新たな経済という現実を基盤とした世界への転換を有するのである。

これは所有という現実が資本主義において存在し、これらは未来の独占を有するのである。

これらは西洋社会が、自己育成への基準を有し、教育と社会を有することに対して、自己社会において正しい理解基盤の構築とともに、児童と社会の育成を再度要求されることは正しいのである。

世界の巨大ファンドが有する資本力に対等に対峙することは、唯一対等な世界への参加を行うことである。

これらは国家の構築が自己の正しい理解と行動における社会と人々の育成を求められるという真実であり、これらにおける絶対的な強さと健全性を西洋社会は有するのである。

自由経済システムのもと、経済は世界と未来の創造を有するため、国家における経済基盤は必ず要求され、パワーポリティックスという現実において政治と軍に同党の必要性を自己に与えるのである。

はるかに想像を超える進歩は、学術性の向上における新しい世界を有するのである。

世界メジャーという企業群が有する経済の現実、世界における基準として正しいのである。これらは世界が西洋資本における独占を有する中、経済における安全保障の絶対的な必要性を求められるのである。

先端工場と先端産業への投資は、未来における豊かさを約束するのである。

これらは政治に対して要求される経済施策への正しい理解基盤であり、これら正しい理解が、正しい経済運営を可能とできるのである。

これらは自由経済システムにおける矛盾とその王たちであり、想像に勝る経済戦争は必ず現実としてその各国の経済施策において存在するのである。

これら現実への対処は唯一対等な現実を構築することであり、外交という現実と内政運営への正しい理解として必ず要求されるものである。